

地域活性学会第8回研究大会 開催報告

地域活性学会 第8回研究大会 事務局長

文責：大宮透

(小布施町 特別職主任研究員・

慶應SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター研究員)

1、はじめに ～概要と開催地である小布施町について～

2016年9月2日(金)～4日(日)の3日間、長野県小布施町にて地域活性学会第8回研究大会を実施した。開催地となった小布施町は、長野県北東部に位置する人口1万1000人の小さな自治体であり、面積は長野県内最小である。1970年代からの官民連携による連続的なまちづくり活動の成果により、年間100万人の観光客が訪れる町となった「地域活性の成功事例」として有名な町である。その名の通り、地域活性の成果や仕組みを研究する地域活性学会としても、第8回大会にして初めて大学のない地域・施設での開催となり、新しい挑戦の舞台となった。

そのような背景のもと開催された今回の研究大会のテーマは、「小さな町の挑戦 ～Small is “powerful”?」。ホストを務めた小布施町をはじめ、小規模自治体がリードする形で進められてきた様々な地域活性におけるチャレンジやその可能性、課題に目を向ける機会となることを目指した。以下、その簡単な報告を行う。

2、具体的なスケジュールと企画概要

(1) 9月2日(金)

・エクスカーショ

時間：13:00-16:00

- ・ 9月2日(金)13:00-16:00にかけて、小布施町のまちづくりのこれまでの経緯や現状について学ぶエクスカーションを実施し、参加者は例年のエクスカーション参加者数を大幅に超え、50名以上に及んだ。
- ・ まず参加者全員で小布施町の町長である市村良三氏より、小布施のまちづくりの概要についてレクチャーを受けた後、役場職員を始め、まちづくりの当事者による案内のもと、町中心部の修景事業地区を中心にまちあるきを行う班と、町周縁部に位置する新しいコミュニティ施設(スポーツ拠点など)をめぐる班の2班に分かれて、実際のまちづくりの現場を見て回るツアーを行った。

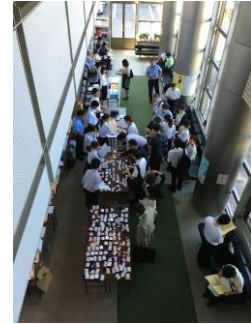


(2) 9月3日(土)

・研究発表①

時間：10:00-12:00

- ・ 小布施町役場内の会議室や公民館施設、普段は図画工作や音楽の教室として使われている小学校の特別教室棟などをフル活用し、10の会場に分かれて研究発表を行った。各教室で4名(一人15分の発表と15分の質疑応答で、一会場4名、全体2時間の形式)が発表を行い、このタームだけで約40名の研究者・実践者による地域活性に関わる研究発表が行われたことになる。教室ごとに10-30名の見学者が発表を見守り、どの会場も盛会となった。



・総会

時間：13:00-13:30

- ・ 総会は、小布施町長の市村良三氏による歓迎の挨拶を持って開会し、地域活性学会の運営にかかる議事を話し合った。また、総会最後には、長野県知事の阿部守一氏より長野県が進める地方創生の方向性について小講演をいただいた。



・シンポジウム①「小さな町の挑戦」

時間：13:40-17:00

- ・ シンポジウム①では、「小さな町の挑戦」と題し、地方創生が叫ばれる中、全国的に注目を集めている自治体のキーマンや、自治体における地域ブランドづくりの事例研究をされている方を講師にお招きし、これからの地域活性化において、小さな自治体が持つ可能性や課題について議論を行った。
- ・ まずは、全体のコーディネーターとして東京大学大学院先端科学技術研究センター教授で、コミュニティデザインや都市計画を専門とする小泉秀樹氏より、幅広い事例を交えながら、「小さな組織や小さな場所」をスタート地点とした”Place Based Planning”というコミュニティデザイン領域における近年のトレンドをご紹介いただいた。
- ・ その後、先進的な取り組みを進める中小自治体を代表して、富山県氷見市で参加と協働のまちづくりの推進役をされている氷見市役所の浅海義治氏、徳島県神山町をベースに長年まちづくり活動を進めてきたNPO法人グリーンバレーの理事長である大南信也氏、ホストである長野県小布施町から大学や企業連携による地域の課題解決を進める筆者(大宮

透)、そして、全国の地域のブランドイメージについて調査研究を進める株式会社ブランド総合研究所代表取締役の田中章雄氏が講師として登壇し、それぞれの事例や調査を通じた地域活性化や地方創生に対する考え方について、20-25分程度の報告を行った。

- 各講師からの報告ののち、小泉秀樹氏のコーディネートのもと、東京農業大学教授の木村俊昭氏をコメンテーターに迎えつつ、基調報告者によるパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションでは、それぞれの事例をもとに、小さな自治体における地域活性化を進める上でのポイントを話し合うとともに、国が進める地方創生策に基づく「総合戦略」策定に対する現場レベルにおける捉え方などについて、活発に議論が行われた。



・ 研究発表②

時間：17:10-18:40

- シンポジウム①終了後には、引き続き、10の会場に分かれて研究発表②が実施された。また東京オリンピックに向けたスポーツまちづくりのあり方についてや、地元長野県内におけるまちづくりの事例発表など、研究発表以外にも、幾つかの特別セッションが同時開催された。

・ 懇親会・交流会

時間：19:00-20:30

- 2日目終了後には、公民館講堂で懇親会・交流会を実施した。150名を超える研究発表者や地元町民らが参加した。



(3) 9月4日(日)

・研究発表③

時間：9:00-11:00

- ・引き続き、10会場に分かれて研究発表を行った。本年度から地域活性学会の部会として立ち上がった「地域おこし協力隊部会」の発表やワークショップも同時開催された。

・シンポジウム②「小さな町の挑戦 ～小布施のまちづくりを振り返る～」

時間：13:00-15:00

- ・シンポジウム②では、小布施のまちづくりの担い手として活躍されてきた町民をゲストとしてお招きし、小布施町の40年にわたるまちづくりを振り返るとともに、これからの小布施のまちづくりの方向性について考えることを目的として開催された。研究発表終了後の開催にもかかわらず、町内外から130名を超える参加があった。
- ・小布施町とは10年来の関わりを持ち、現在信州大学の特任教授である中嶋聞多氏のコーディネートのもと、小布施町長の市村良三氏、小布施文化観光協会前会長で松葉屋本店代表取締役の市川博之氏、新生病院の元院長で現在栗の木診療所の所長である内坂徹氏、「まちづくり委員会」の前会長の内山英行氏、そして、東京理科大学・小布施町まちづくり研究所の研究員として、また小布施町役場の職員として長く小布施のまちづくりに関わり、現在信州大学助教の勝亦達夫氏の計5名を講師として迎え、それぞれの立場から進めてきたまちづくりについて、20分程度の事例発表を行っていただいた。それぞれの発表に対しては、小布施堂らにより1980年代を通じて行われた町並み修景事業にも深く関わられた江戸川大学特任教授の鈴木輝隆氏よりコメントをいただきつつ進められた。会場も交えた上で、これまでの小布施のまちづくりが成功してきた要因について、小布施らしさについて、そして、現在の小布施が持つ課題などについて議論が交わされた。



3、最後に

今回、様々なご縁が重なって地域活性学会史上初めての「地域」を舞台にした研究大会をホストさせていただくこととなり、昨年度から学会事務局や役場担当職員の皆様とともに準備を進めてきた。幸い、小布施町では 2012 年より「小布施若者会議」や「HLAB OBUSE」などの 100 名以上の参加者を受け入れるプログラムを主催・共催してきており、公共施設を拠点とした中規模なプログラムの受け入れノウハウを持っていたため、地域活性学会の受け入れについても、当初そこまでのハードルの高さを感じていなかった。

しかし、通常 50 名程度の発表者で実施されると聞いていた地域活性学会の研究大会が、蓋を開けてみると 150 名を超える研究の応募があり、会場や人員の確保など、当初の計画からは大幅な変更を余儀なくされた。最終的に述べ 360 名の関係者が 3 日間の間に活性学会を訪れたというが、これはこれまでの研究大会の中で過去最大の参加者数となったという。これは地域活性学会自体の底力によるものなのか、それとも小布施町という地域活性の先進地である「現場」での開催が影響したものなのか定かではないが、参加していただいた研究者の方々からの感想を聞いてみると、例年になく手作り感にあふれ、それが熱気を生んでいた「地域活性を研究する学会にふさわしい」研究大会だったと感じていただけたようだった。またシンポジウムなどに参加していただいた町民の方々からも、「こういう機会を小布施で開いてくれてありがたい」という言葉を何度もいただいた。ホスト側として、そのような声を聞くことができ、ただただ、ほっとする。

最後となったが、当日の発表に参加していただいた町内外の皆様はもちろん、半年以上前から度重なる変更にもめげず、開催に必要な各方面の調整を率先して進めていただいた小布施町役場の皆様、スタッフとして 3 日間必死に準備を手伝ってくださった金沢星稜大学、高崎経済大学、信州大学、東京大学の有志の学生の皆様、地域活性学会の事務局の白石様、そして、小布施町という大学のない町で研究大会を実施するという、前例に縛られ

ない意思決定をしていただいた学会理事の皆様ら、このような機会を可能にいただいた関係者の皆様に、心より感謝の意を表したい。本当にありがとうございました。

以上